Evaluation of a tool that enables cancer patients to participate in the decision-making process during treatment selection

がん患者の治療選択における意思決定支援ツールの評価

日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野

研究生　中鉢 久実

Journal of Nippon Medical School 第 88 巻　第 4 号(2021) 掲載

論文内容の要旨

Evaluation of a tool that enables cancer patients to participate in the decision-making process during treatment selection

がん患者の治療選択における意思決定支援ツールの評価

日本医科大学医学研究科 呼吸器内科学分野

研究生　中鉢 久実

Journal of Nippon Medical School 第 88 巻　第 4 号(2021) 掲載

【背景】 患者の治療に関する意思決定への参加が、近年強く推奨されるようになった。
臨床的な意思決定は、医師主導、患者主導、医師/患者双方にて行うものに分けられる。
日本を含むアジアでは、医師-患者関係は比較的父権的で、医師が治療に関する決定を行い、患者や患者家族はその決定を受け入れるという傾向にあるが、このような医師-患者関係においては、意思決定に参加するための情報を得にくいという問題点が指摘されている。
医師-患者関係が意思決定に大きな影響を与えることや、治療方針決定への患者の参加は最終的に治療への満足度を高めるという報告があり、治療選択に対する満足度は健康状態に好影響を及ぼすとされている。しかし、最良の意思決定支援へのアプローチについては一致した見解は得られておらず、特に病気の進行度によって意思決定の嗜好が多様であるがん診療の現場では、患者それぞれの意向を評価する必要があると考える。また、意思決定への参加には病気に関する情報を得る必要があるが、情報収集への積極性も個人差がある。
今回我々は、がん患者が治療選択に寄与する情報を得やすく、医師とのコミュニケーションをより円滑に行うための補助ツールを開発し、意思決定支援への有用性を評価した。
【方法】 2013 年 11 月から 2014 年 4 月までに日本医科大学付属病院呼吸器内科に、初回治療のため入院した 20 名の病理学的確定診断がなされたがん患者を対象とした。
同意を得た上で、入院前に 14 項目の質問からなる「治療選択に関するチェックシート(以下、チェックシート)」を患者/患者家族に配布し、入院後に入院担当医が、記載されたチェックシートを参考にしながら病状や治療の説明を行った。退院時にはチェックシートの有用性を評価するために「チェックシートをお使いの皆さまへ　チェックシート及び治療選びについてのご質問」という質問票を配布した。チェックシートを使用して説明を行った担当医には、「担当医のみなさまへ　がん治療選択支援チェックシート評価についてのお願い」という質問票を配布し、担当医側からの評価を行った。本研究は日本医科大学病院倫理委員会の承認を得て行った。
【結果】 20 名全員から同意を得ることができた。対象の年齢中央値は 65.5 才、原発巣は肺と胸腺、診断時の進行度は半分以上の対象で Stage ⅢB 以上であった。
　チェックシートを使用した 20 名のうち、退院時の質問表に回答のあった 14 名全員が、チェックシートの使用が意思決定支援や医師への質問への助けになったと回答したが、1 名はチェックシートの記載に関して不快感があったという評価だった。
　質問票に回答した医師の意見は、チェックシートを使用することによって患者が自分の考えをまとめることができたことや医師とのコミュニケーションを円滑にすることに役立つという評価であった。しかしながら、チェックシートを使用した診療については業務上の負担が増えるという意見もあった。
【考察】 我々は、病状や治療に関するチェックシートに回答することは、患者に治療に関する考えをまとめ、医師との会話を円滑にすることに役立つと考えた。医師側においても、患者とのコミュニケーションに役立つと評価した。がん患者を対象とした研究では、治療前に患者の希望を聴くことが信頼関係を築くうえで重要な役割であり、医師-患者間の信頼関

係の形成が、結果的に選択した治療の満足度を向上させるとしている。チェックシートを使用することで医師－患者間の情報共有が出来れば、治療選択に関する満足度の向上につながると考える。今回の研究では、全ての工程を医師が行ったが、通常業務でこれらを行うのは負担が大きいと意見した医師もおり、今後実臨床で使用していくには、医師の実務負担軽減のために他職種からの協力も得る必要がある。多職種からのサポートにより、質問への回答率の上昇や、質問の意図が理解できない事から生じる不快感の改善につながることが期待される。今回の研究の限界は、20 例という症例数の少なさであり、チェックシートの有用性が十分に証明できなかった。今後は症例数を増やし、他職種のサポートを得たうえでの複数の癌種の患者を対象とした研究が必要と考える。

【結語】がん患者の意思決定支援のための補助ツールを開発した。

医師、看護師、薬剤師のがん患者への意思決定支援に関する教育において今後フレームワークなどを使用し、患者の満足度向上、がん診療の質向上に寄与できればと考える。